

マイルCS勝ちポジ的予想

▶最強のマイラー

私の中で、最強のマイラーは？と聞かれればタイキシャトルと答えますが、最高のマイラーは？という問いにはトロットサンダーと答えると思います。なにせ、マイル戦に限って言えば、8戦8勝無敗という、マイルを走るために生まれてきたようなサラブレッドなのですから。しかも、タイキシャトルのような磐石のレースぶりではなく、後方からズバツと差して来るトロットサンダーの走りに、私はマイル戦の面白さを教えてもらったのです。

トロットサンダーの父はダイナコスモス、母はラセーナワング（父テスコボーイ）という地味な血統で、育成時代に大怪我を負ったこともあり、浦和競馬場で遅れたデビューを果たしました。8戦7勝の成績を引っさげて中央入りしたのですが、当時はほとんどと言ってよいほど注目されませんでした。しかし、ダートよりも芝の方が合っていたようで、特にマイル戦に照準を絞ってからの強さというのは尋常ではありませんでした。1400mでは足りなくて、1800m以上では少し長いというマイラーの中のマイラーだったのですね。

横山典弘騎手を好きになったのはトロットサンダーの札幌記念だと以前に書きましたが、トロットサンダーのレースの中で最も印象に残っているのは、1995年のマイルCSです。トロットサンダーにとって、初めてのG1タイトルを取ったレースです。前走のアイランドTを快勝し、挑戦者として4番人気で臨んだマイルCSでした。1番人気は前走セントウルSを勝った武豊鞍上のピコーベガス。続く2番人気はスワンSの勝者であるヒシアケボノという、勢いのある関西馬が主役を張っていました。

今でも覚えているのですが、このレースを予想していて、思わず「エっ！」と声を出してしまいました。何かと言うと、私はこの当時から、マイルのチャンピオンを決めるレースである以上、マイル戦の実績は必須と考えていて、マイル戦の連対率が50%に満たない馬は消していました。マイルのG1レースに出走してくる馬は、当然のことながらマイル戦を得意としているので、過去のレースにおいて、このデータだけではほとんどの馬が残ってしまうのが普通でした。しかし、このレースでマイル戦の連対率が50%を切る馬を消していくと、なんとなんと、2頭しか残らなかったのです！

トロットサンダー
メイショウテゾロ

驚いた私は、友人たちに内緒でトロットサンダーの馬券をたくさん買いました。マイル戦の連対率が50%を超えているだけではなく、負けたことがないので、他の出走馬とは次元が違います。その時は負けるはずがないとさえ思いました。16番人気のメイショウテゾロについては半信半疑でしたが、この2頭しか残っていないのですから、この馬も買わざるを得ませんよね。

大外からオレンジの帽子が飛んできたときには、まさに鳥肌が立ちました。レース中、横山典弘騎手が馬にゴーサインを送る意味で、ムチをスッと高くかかげるのですが、あのシーンがカッコよくて、ターフィーショップで買ってあったムチを使って真似してみたなあ。最後の直線では、これぞマイラーという極上の切れ味でした。

しかも、2着には16番人気のメイショウテゾロを連れてきたのです！トロットサンダーの単勝は850円。トロットサンダーとメイショウテゾロの馬連は10万馬券となりました。メイショウテゾロが好走した原因は、マイル戦の連対率が50%を超えていた（マイル適性があった）ことだけではなく、他にもあったのですが、それについては、またいつか書きたいと思います。

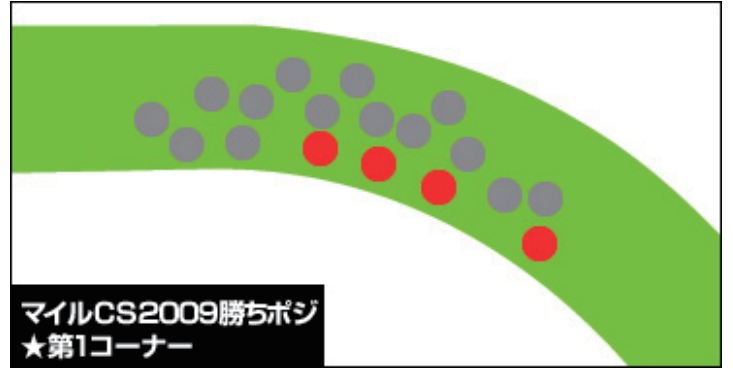
この後、翌年の安田記念もトロットサンダーは制して、マイル無敗のまま現役を引退していきました。私にとっての最高のマイラーであるトロットサンダーの強さは、メイショウテゾロという大穴のイメージと共に、私の記憶の中に今でも鮮明に残っています。

▶マイルCSの勝ちポジ

さて、今年のマイルCSに話を移しましょう。マイルCSが行われる京都1600mコースは、向こう正面の直線を2コーナー側に延長したポケットからのスタートになります。第1コーナーとなる3コーナーまでの距離は711mと長いので、逃げ馬が気分よく行ってしまえばオーバーペースになりやすいです。しかし、3コーナー過ぎてからは下り坂となるので、多少のハイペースで行ったとしても、前もなかなか止まりません。レース全体として、平均ペースになることが多いということですね。また、この時期は内の馬場が少しずつ荒れてくるが、それほど気にする必要はありません。

そうすると、基本ポジション（内の2、3番手）に加え、瞬発力を持った馬であれば、その1頭後ろが勝ちポジ●となります。京都の外回りコースは、最終コーナーで内がポツカリと開きやすいことも、なおさら内で脚を溜められる馬にとっては安心材料となります。また、切れる脚を持ちあわせていないが、地脚の強い馬であれば、直線

が平坦なので、思い切って逃げてみることで勝機が出てくるはずですが、ただし、余程の力差がない限り、勝ち切るのは難しいですね。



▶カンパニーのもう一丁は？

今年のマイルCSの最大の焦点は、天皇賞秋を制したカンパニーのもう一丁があるかどうかということですね。結論から言うと、天皇賞秋を勝った馬がマイルCSに出走してくれば、間違いなく好勝負になりますし、かなりの確率で勝てるはずですが、

天皇賞秋を勝った馬がマイルCSに出走してくるケースは意外や少なく、2006年のダイワメジャーの前はと言えば、1987年のニッポータイオーにまで遡らなければなりません。天皇賞秋の勝ち馬のほとんどは、ジャパンカップや有馬記念に挑戦するからです。天皇賞秋を勝ったということは、スピードとスタミナを最高の次元で兼備していることを意味します。

そういった馬がマイルCSに矛先を向けてきた以上、紛れの少ない京都のマイル戦ということもあり、ほぼ確勝を期しているということになります。もちろん、ニッポータイオーもダイワメジャーもマイルCSを制しています。外枠だった昨年と違い、今年は絶好の4番枠を引いたので、マイル戦を意識して、横山典弘騎手もいつもよりは出してくるので、内の中団（前から4頭目）の勝ちポジ●を走られるはずですが、

カンパニーの唯一の心配材料は、マイル戦に対する適性です。マイル戦の連対率が5割を切っているように、この馬は決してマイラーではなく、中距離で瞬発力を生かすタイプです。マイルがドンピシャではない以上、たとえ総合力が一枚も二枚も上だとしても、足をすくわれてしまう可能性もあるということですね。京都の外回りコースは最後の直線で内が開くので心配はないと思いますが、もし前が壁になったら冷や汗をかくかもしれません。

▶◎マイネルファルケ

切れ味勝負には絶対の自信を持つカンパニーにひと泡吹かせるのであれば、マイル適性がある、かつ前に行って粘り込める馬でしょう。◎マイネルファルケは外枠を引いたが、京都1600m（外回り）は第1コーナーまでの直線が長いので、すんなり先頭を取れるのではないのでしょうか。母はスプリンターであったピンゴハナコですが、この馬は地脚を活かせるマイル戦の方に適性があります。現にマイル戦の連対率は優に50%を超えています。休み明けを3回叩いて、体調も最高潮。逃げ先行馬に乗せると上手い和田騎手というのも魅力です。

キャプテントゥーレは、マイネルファルケを行かせて内の2番手という絶好のポジションを取れるはずですが、長期休養明けを3度叩かれて、完全復活してきています。坂路での最終追い切りの動きも、骨折した馬のそれとは思えません。ただし、それほど瞬発力のあるタイプではないので、勝ち切るまでは苦しいかもしれません。天皇賞秋の大敗も気になるところです。

ザレマは前走の富士S、外枠からの発走で、折り合いを欠いただけではなく、終始外々を回らされてしまいました。内田博幸騎手になってから、前に行く気が満々に出てきているので、前に馬を置く形にしたいところです。内枠であれば思い切って出て行けますが、今回は11番枠という中途半端な枠順を引いたので、乗り方が難しいはずですが、仕上がりと体調は良さそうなので、あとはレースに行つての折り合い、ポジション次第で大きく着順が変わってくるはずですが、

◎マイネルファルケ（和田竜二）

○カンパニー（横山典弘）

▲キャプテントゥーレ（川田将雅）

△ザレマ（内田博幸）